

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀市立嘉瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	・嘉瀬小のよさ・強みである地域連携を生かして、児童の育成に努めた。SDG sの取り組みによって、社会的視野の広がりや児童の主体性・地域への愛着を育てることができた。児童の育成のためにも、職員の心身の健康が必要と考える。そのため、業務の簡素化に向けた具体的方策が必要である。
2 学校教育目標	ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成 ～だれ一人取り残さない！学び続ける学校～
3 本年度の重点目標	・学力向上や一人一人を大切にした学校をめざし、家庭と連携しながら、学校全体で学習環境を整える。 ・目指す子ども像に向かい、県研究指定事業「SDG s教育」の視点を取り入れ、楽しい授業やわかる授業をめざして授業改善を図る。 ・地域への愛着を育成するため、令和7年度の地域学校共同本部設置に向け、既存の嘉瀬小ボランティアネットワークと連携しながら、持続可能な地域ネットワークを構築する。 ・職員の心身の健康を守り、児童の学びを止めないために、組織力向上と働き方改革の推進を図る。

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習規律の定着 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師90%以上 ○SDG sの視点を取り入れた学習を実践し、児童アンケートでSDG sに関して肯定的な回答をした児童80%以上 ○学習状況調査及びCRTで県平均以上 ○保護者評価で、肯定的回答80%以上	・教職員間で共通実践を共有し、日常的に取り組み内容を情報交換する。 ・全校立派に取り組むことで、学びに向かう習慣づけをはかる。 ・SDG sの視点を取り入れ、楽しい授業やわかる授業をめざして、問題解決型授業や探究学習を行う。 ・年に3回の全校授業研究会を実施する。 ・家庭と連携し家庭学習の充実を促す。 ・学習状況調査結果を分析し、問題把握や課題解決に向けて、情報を整理する力、読み取る力などを伸長する方策を実践する。 ・タブレットを使った個別最適な学習実践を行う。	A	・共通実践「ICT機器等を活用して、話し合いを活用する学習」に取り組んだに対する成果指標で達成度は73.4%だった。今後、授業での話し合い活動でICT機器の活用をさらに固めていく。 ・SDG sの児童の認知度は93%と高く、「自分でできることを考えた」「継続して取り組んでいる」と肯定的に答えた児童は、それぞれ89%と82%だった。SDG sの視点を取り入れた授業を行うことで、学習したことを生活の中に取り入れる児童が増えている。 ・全国学力学習状況調査や県学力学習状況調査の結果は、県平均であった。夏季休業中に結果を分析し、本校の課題と対策を全職員で共通理解を行った。 ・家庭学習の充実と肯定的な回答をした保護者は93%だった。今後もタブレットを活用した家庭学習	B	・ICT機器等を活用した話し合い活動の活性化では、1月の職員へのアンケートの結果、肯定的に回答したのは4割ほどとなった。「発表シート」の利用やICT機器での情報収集等も実践が図られているが、機器操作の習熟不足などリテラシーの不足が課題となっている。 ・「SDG s」を継続して取り組んでいると肯定的に回答した児童は、85%だった。児童にとって、SDG sはより身近なものとなり、自分の日常生活をSDG sの視点で確認付け、継続して取り組む力が育ちつつある。 ・「SDG s」の研究授業の全校授業研究会を2回実施。目標に達せなかった。 ・授業へのアンケートで家庭学習への実施状況を見た結果、達成している児童の割合は7割程度で、学年に応じた家庭学習時間には届いていない傾向が見られた。11月に「家庭学習強化期間」を設けた際には成果が見られたので、学習習慣の定着に努めた。 ・保護者評価で学習に関するすべての評価で「学習の仕方の指導」が分かりやすい授業「基礎学力定着の取り組み」が90%以上の肯定的な回答だった。	A	・今後、ICT機器を活用する授業実践を行い、さらに指導力を高めてほしい。 ・家庭学習充実のため、保護者への協力を促してほしい。 ・タブレットを持ち帰っているが、家庭で何をしているのかは非常に気になる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○友達に関するアンケートで肯定的な回答をした児童90%以上。 ○道徳科の授業に関するアンケートで肯定的な回答をした職員85%以上。 ○いじめの対応に関するアンケートで肯定的な回答をした職員90%以上。	・友達の良さを認める活動や人権教室を充実させ、友達を思いやる豊かな心の教育を実践する。 ・年間を通して、職員による「ほめほめ大作戦」を実施し、目指す子ども像「五青藍」の具体的な活動を賞賛する。（全児童一人2回以上） ・SDG sの視点から、平和や命の大切さを考える講演会・ふれあい道徳を開催する。 ・いじめの早期発見、解決するため、毎月アンケートを実施し、全職員で情報共有し初期対応に努める。 ・保護者や専門機関と連携し、早期対応をめざす。	A	・友達に関するアンケートで肯定的な回答をした児童は95%だった。「友達の良さを認め合うことができた」と答えた児童も95%あり、各学級における取り組みや人権教室での取り組み、「ほめほめ大作戦」が効果的であった。 ・道徳科の授業に関するアンケートで肯定的な回答をした職員は100%であった。日頃から職員間で授業に関する情報交換ができていた。	A	・友達に関するアンケートで肯定的な回答をした児童は95%だった。「友達の良さを認め合うことができた」と答えた児童も95%あり、各学級で継続的に取り組みを行った成果が表れていると思われる。また、児童の自主的組織である人権リーダーを中心とした活動も効果的であった。 ・職員による「ほめほめ大作戦」一人2回賞賛された割合は95%を達成した。 ・道徳科の授業に関するアンケートで肯定的な回答をした職員は93%であった。人権講演会、ふれあい道徳等で職員の意識も高まることになった。	A	・親の価値観の多様化を感じる。心の教育を身に付けるために、体験活動の充実を図ってほしい。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒70%以上 ●早寝・早起き・朝ごはんの家庭への啓発を強化し、達成できた児童90%以上。	・歩いて登下校することの良さ、大切さを児童だけでなく、保護者にも伝えていく。 ・昼休み等に体を動かすことができるよう、体育委員会や学級の係活動等での取り組みを行う。 ・たてわり活動で、運動を楽しむ場を設ける。 ・学級単位でスポーツチャレンジに、6学級以上参加をする。 ・保健便りや給食便り等を通して、早寝・早起き・朝ごはんの効果を啓発する。 ・学校栄養職員や養護教諭が連携し、学級活動や教科指導などで食の大切さや健康についての意識向上を図る。	A	・アンケートで授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上であると答えた児童が80%だった。 ・歩いて登下校することの良さや大切さを児童や保護者にも伝えていくことで、事情なく送り迎える児童は少数にとどまっている。 ・たてわり活動では学年の枠を超え、一緒に運動を楽しんでいる。後期は体育委員会が中心となって全校でスポーツチャレンジに取り組むことで、よりいっそう運動に親しむ機会を増やしたい。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上であると答えた児童は85%だった。 ・体育委員会がスポーツチャレンジの見本動画を撮って全校に届けられるなどした結果、ほぼ全ての学級でスポーツチャレンジに取り組むことができた。 ・校舎改築のためたてわり活動では運動場で十分なスペースを確保できなかったが、隔週で外遊びを実施するなど工夫して運動の機会を確保した。 ・体力・運動能力調査の郡で県最良校として県教育長表彰を受賞。	A	・よく遊んで自然に運動能力が育つという考え方を広げてほしい。 ・県教育長表彰は素晴らしい結果である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●業務改善に関するアンケートで「具体的な取り組み」に対して肯定的な回答をした職員80%以上。	・業務の平準化とICT活用（データ共有） ・職員アンケートを基に、学校全体で、時間外業務内容の1項目以上の削減を実施する。 ・タイムマネジメントに関する職員研修の実施。	C	・業務改善に関するアンケートで「具体的な取り組み」に対して肯定的な回答をした職員76%で目標の80%に届かなかった。 ・個人懇談の充実を図ることで、通知表の所見欄の前期は削減した。 ・月の時間外業務時間を前月、前年と比較し公表し、意識の向上を図った。	B	・業務改善に関するアンケートでは「具体的な取り組み」に対して肯定的な回答をした職員が98%、 ・連絡会でのITを活用し、口頭による説明が減り、時間遅れができた。 ・時間外業務時間がシステムが変更になったので、すぐに把握できる仕組みを構築する必要がある。	B	・後期は業務改善に肯定的な回答をした職員が増えたのでよかった。 ・職員の心の健康が子供の教育にも指導意欲にもつながると思う。健康面の配慮をしてほしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上の理解を図る。	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・教室等のUD化について理解し、教室環境を整える。 ・児童への関わりと対応について、外部講師による職員研修を実施。 ・自立活動の研修の機会を設定し、自立活動の授業公開及び研修会を行う。	B	・全教室の前方は、児童の刺激となる掲示物はなく落ち着いた環境作りができていた。 ・講師招聘による研修会を2回実施した。児童対応の仕方や言葉かけについて学び、全職員が日々実践し続けている。 ・自立活動の研修会を8月に実施。研究授業については、実施時期未定。	B	・教室前は、最低限のものに限定し、後方や左右の掲示版に児童の作品や学習の学びに関するものを掲示することができている。 ・発達障害や学習に合わせた関わりや言葉かけについて、随時、職員同士で相談し合いながら実践している。 ・自立活動は支援学級で週に1～2回程度実施している。授業公開はできなかったが、管理職や保護者に参観してもらった機会を作ることができた。	B	・研修により児童理解が進んでいると思う。さらに一人一人に寄り添った指導を続けてほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携	○児童が地域の良さを語り、夢や希望の実現に向けて主体的・意欲的に取り組もうとするための教育活動を行う。	○「嘉瀬町が好きですか」等の調査で、肯定的な回答をした児童が90%以上。 ○「目標（夢）を持ち、見通しをもって粘り強く取り組むことができたか」等のアンケートで、肯定的な回答をした児童が80%以上。	・学校HP「かせこSDG s」コーナーを週に1回更新し、各学年の主体的・意欲的な取り組みを発信する。 ・KSVNの組織を活性化し、日常的な学習活動に、地域の方との交流を組み込む。 ・学校評議員会を活用し、地域学校共同本部設置に向けた研修会を2回実施する。 ・地域教育COと連携し、KSVNの活性化と次世代のメンバー候補を選出する。	B	・「嘉瀬町が好きですか」等の調査で、肯定的な回答をした児童が80%以上であった。 ・学校HP「かせこSDG s」コーナーを週に1回更新し、各学年の主体的・意欲的な取り組みを発信できた。 ・1年生、6年生を中心にKSVNの組織を活用し、日常的な学習活動に、地域の方との交流を組み込む回数が増加した。 ・市教育委員会による説明会を1回実施。地域教育COを中心にKSVNの組織を基にした持続可能な地域連携体制作りを検討中。	A	・学習を通して地域の良さを好きになったと肯定的な回答をした児童が98%である。 ・学校HP「かせこSDG s」コーナーを定期的に更新でき、各学年の取り組みや地域との交流について発信できた。また、地域の協力により研究発表会を行うことができた。 ・KSVNの組織を活用し、日常的な学習、ふれあい活動など、地域の方との交流回数が増加した。 ・地域教育COを中心にKSVNの組織を基にした持続可能な地域連携体制作りを検討中。	A	・児童博士を誇りに思っており、学習における知己交流は成果が出ている。 ・地域団体として積極的に学校の取り組みに協力したい。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育									

5 総合評価・次年度への展望	・嘉瀬小のよさ・強みである地域連携を生かして、引き続き児童の知・徳・体の育成に努めた。地域教育コーディネーターと連携し、開かれた教育課程の拡充を図った。来年度は学校と地域の役割分担をさらに明確にし、そのうえで目的意識を持った地域とのより一層の交流を進めることで、児童の主体性や地域への愛着を育てたい。
----------------	--